

これまでの検討状況等について

1. 第 1 回研究会

次期家畜改良増殖目標を検討するため、畜種別に研究会を設置・開催し、本年 6 月から検討を開始。

(1) 開催状況

- ・乳用牛（6 月 9 日）
- ・肉用牛（6 月 8 日）
- ・豚（6 月 17 日）
- ・鶏（6 月 10 日）
- ・めん山羊（6 月 27 日）
- ・馬（6 月 24 日）

(2) 検討事項等

- ① 改良増殖をめぐる情勢
- ② 家畜改良増殖目標に係る現状と課題
- ③ 新たな家畜改良増殖目標の検討の視点について
- ④ 新たな家畜改良増殖目標について（討議）

2. 第 2 回研究会

第 1 回研究会での議論等を踏まえて作成した新たな目標の骨子案等について議論（別添参照）。

（馬、めん山羊については第 2 回研究会が最終回。）

(1) 開催状況

- ・乳用牛（9 月 29 日）
- ・肉用牛（10 月 7 日）
- ・馬（11 月 5 日）
- ・豚（10 月 15 日）
- ・鶏（10 月 16 日）
- ・めん山羊（11 月 12 日）

(2) 検討事項等

- ① 委員からの意見等と今後の方向性
- ② 新たな目標の骨子案

3. 第 3 回研究会

第 2 回研究会での議論等を踏まえて修正した新たな目標の骨子二次案等について議論。

(1) 開催状況

- ・肉用牛（11 月 25 日）
- ・乳用牛（12 月 1 日）
- ・豚（12 月 5 日）
- ・鶏（平成 27 年 1 月 15 日）

(2) 検討事項等

- ① 都道府県からの意見・要望と対応方向
- ② 新たな目標の骨子二次案

新たな家畜改良増殖目標（第10次）の検討状況について － 鶏 －

現状と課題

- ・国産鶏種の出荷シェアは少ないが（卵用鶏で6～7%、肉用鶏で2%）、我が国の気候風土等の飼養条件にも適応した改良増殖を進める必要。
- ・卵用鶏については、卵質などの面で外国鶏種との特色の違いをいかにアピールするか。
- ・肉用鶏については、ブロイラーよりも増体性や繁殖性に劣るため、これらの能力向上が重要。



新たな改良増殖目標(案)のポイント

【能力に関する目標】

- ・在来種等を利用して飼養管理面に工夫を加えて生産されている地鶏等については、ブロイラーとは別に目標を設定。

1 卵用鶏

- ・早期に目標卵重量に達成させ、産卵期間を持続。
- ・卵殻強度、消費者ニーズに応えた卵殻色、ハウユニット等の改良を推進。
- ・長期にわたる高い生産性を維持するため、育成率及び生存率の向上に努める。

2 肉用鶏

① ブロイラー

- ・飼料要求率の改善とバランスを取りながら増体に努める。
- ・飼養・衛生管理の改善と遺伝的な強健性の付与により、育成率向上に努める。

② 地鶏等

- ・生産コスト削減のため、増体性と育成率や産卵性とのバランスのとれた種鶏の能力向上を図る。
- ・ひなの安定供給や消費者等の認知度を高める取組を推進。

【能力向上に資する取組】

1 改良手法

- ・国（家畜改良センター）、都道府県、民間の連携（系統造成、組合せ検定）を推進。

2 飼養・衛生管理

- ・衛生管理の徹底、飼料用米の利用等の取組を推進。

※ 現在も議論中の事項

- 国産鶏種のうち地鶏以外の特別な飼育をしている鶏をどのように位置付けるか（表現の方法）。
- 次期食料・農業・農村基本計画における食料自給率目標（37年度目標）と整合する目標数値（飼料頭数を含む）の設定。